

新しい旅立ちに乾杯

平成26年3月1日、第34回卒業式を行いました。34期生とは、1年だけのつながりでした。しかし、私にとってはとても大きく、そして、とても大切な1年でした。今の逗葉高校があるのも、34期生が築いてきてくれた伝統のおかげだと思っています。

卒業式にあたり、卒業生に何かプレゼントができないかとずっと考えていました。そんなとき、「第3の万能細胞発見」のニュースが世界中を駆け巡りました。この大発見が逗葉高校の卒業生のものであることを知り、若山さんから直接メッセージをいただきたいと思い、連絡を取りました。若山さんから、すぐに逗葉生に贈る熱いメッセージをいただくことができました。

これまでがんばってくれた34期生に、私からのプレゼントとして、若山さんのメッセージを贈りました。

この度は、僕の仕事を生徒たちに伝えてくださり、ありがとうございました。逗葉高校出身者として、母校の生徒たちが僕の仕事で良い刺激を受けたとしたら、本当にうれしい限りです。少しでも母校に貢献できるのであれば、いくらでも協力いたします。もしよろしければ、次の言葉を生徒に贈ってください。

僕の逗葉高校での成績は、特に英語がひどかったので、全科目平均すると中の中というレベルでした。英語が弱点だとわかっているにもかかわらず、英語は大嫌いだったので、英語を勉強しないでも済む方法を勉強し、当時は珍しかった2次試験で英語のない茨城大学に入ることができました。受験勉強ではなく、受験対策を勉強したのです。

そのおかげで、何とか茨城大学に入学できたのですが、科学者になるには十分な環境でないことがわかってきました。大部分の科学者は、東大や京大出身なのです。僕は小さい頃から科学者になることを夢見てきましたが、このままでは科学者になるのはほぼ不可能だとわかったのです。やっぱり僕には、科学者になることなんて不可能なのか、と挫折感がありました。

でも、大学受験の時、普通に勉強するのではなく、受験対策を勉強することで、英語が0点なのに国立大学に入れました。僕は、同じことを科学者になるために行うことにしたのです。つまり、一流大学に入れるだけの頭脳を持たない僕が科学者になるためには、勉強で勝負しては勝ち目がない、勉強以外の方法で他の科学者に勝負することにしたのです。

今回のSTAP細胞もそうですが、以前からずっと行っていたクローンマウスや、今行っている宇宙ステーションでの繁殖実験など、すべて頭ではなく技術で勝負しています。技術は訓練で身につくものであり、僕にだって東大や京大の科学者に勝てるのです。

皆さんが、今後社会に出たとき、一流大学出身の人たちと一緒に仕事をするかもしれません。でも、相手が自分よりレベルが高いなんて考えたりしないでください。

高校で0点を取っていた僕が戦えるのですから、みんなも、自分ならではの、という方法を見つけ出し、戦ってください。一卒業生として、逗葉高校の後輩たちが活躍してくれるのを楽しみにしています。

若山照彦

自分の選んだ道、自分の信じた道を一步ずつ着実に歩んでほしいと思います。うまくいかない時もあるかもしれませんが、最初からうまくいくことなどありません。この旅立ちの日の想いを胸に、がんばってほしいと思います。

34期生の皆さん、卒業おめでとう。そして、今日までありがとう。

平成26年3月